

# 令和6（2024）年度 家庭教育オピニオンリーダー研修② 実施報告

実施日：令和6（2024）年7月18日（木）

## ○ 説明「遊びの中で学ぶ幼児について」 栃木県幼児教育センター 幼児教育指導員 小倉 庸寛 氏

小倉氏からは、御自身が経営された幼稚園や保育園、認定こども園での子どもたちとの関わりやエピソードを事例として示しながら、幼児期の子どもをどのように育むのか、育ちに大切な要素や親への支援で大切なことは何かなどについて説明がありました。

前半は、子育て家庭を取り巻く現状から、幼児期の子どもを持つ保護者への対応や支援の在り方、保護者に寄り添う支援のポイントを具体的に話されました。後半は、幼児期の子どもの「人間形成の基礎」を育てるために必要なことや育みたい資質・能力、幼児にとっての「遊び」と「学び」の関係などについて説明がありました。

受講者は、子どもとの関わりや自分の子育て経験も想起しながら、幼児期の子どもの育ちを支えるための基本的な考え方について理解を深めていました。



## ○ 事例発表・座談会「家庭教育オピニオンリーダーの活動について」

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会長 桐生 澄江 氏 副会長 今井 由佳 氏  
副会長 奥村 美佐子 氏 研修部長 高松 真里 氏

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の活動について、会長の桐生氏をはじめとする4名の会員から事例発表がありました。まず、桐生氏から、連合会は発足から30年を超える歴史ある組織として、「子育て・人づくり・地域づくり」を目標に活動していること、現在の会員数は357名で、県内7ブロック31支部が、それぞれの得意とする分野や地域の特徴を生かし、地域に根づいた活動を展開していること等について説明がありました。

次に、今井氏、奥村氏、高松氏から、県央・県南・県北地区それぞれの活動について紹介がありました。家庭教育オピニオンリーダー連合会単独の活動だけでなく、学校や行政、他団体と連携しながら、小学校での家庭教育支援プログラムや工作活動、イベントなどを実施したり、家庭教育支援者としての力量を高めるための研修会を催したりしているとのことでした。

最後に、地区ごとに座談会を行ったことで、受講者は、各地区の活動について更に詳しい話を聞いたり、質問したりすることができました。

事例発表及び座談会により、受講者は、家庭教育オピニオンリーダー連合会の活動について理解を深めることができました。



### ☆受講者の声（アンケートから）

- ・子育て中の保護者は、それぞれに抱えている思いがある中、精一杯がんばっていることを忘れずにいようと思いました。良き伴走者になりたいです。
- ・講話を聞いて、「豊かな心」という言葉がとても心に残りました。子育ての経験はまだありませんが、一番、子どもの気持ちが分かる立場として、自信を持って保護者支援に関わっていきたくと改めて感じました。
- ・改めて、幼児期の育て方が将来に影響することを知り、家庭教育がいかに大切かを感じました。
- ・相手に何かを教えるのではなく、共に感じ、考え、寄り添うことを第一に活動していけたらと思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp